

Title	来賓挨拶
Author(s)	吉田, 茂
Citation	京都大学高等教育研究 (1996), 2: 4-4
Issue Date	1996-06-30
URL	http://hdl.handle.net/2433/53501
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

来賓挨拶

吉田 茂（文部省高等教育局長）

紹介いただきました吉田でございます。本日、京都大学高等教育教授システム開発センター主催の第2回大学教育改革フォーラムにお招きをいただき、ご挨拶の機会をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

ご案内のように本センターは、国立大学としては初めての大学教授法に関する学内共同教育研究施設として、平成6年度に創設されました。その後、体系的な教授システムの研究開発を始め、大学の教育機能の強化という大学改革の本質的な課題に向けて、真摯な取り組みを着実に推進しておられるということは、ご参加のみなさまもご存知のとおりでございます。

現在、我が国の大学は非常に大きな変革の時を迎えております。学問研究の進展はもとより、国際化・情報化の進展等、社会・経済の変化が一層激しさを増す中で、大学に求められる役割は一層高度化し、かつ多様化してきております。大学がこのような社会の要請に十分応えることができるのか、という問いかけが大学の内外からなされるようになってきております。多くの大学では、このような問いかけを契機といたしまして、高等教育の高度化、個性化、活性化に向けた具体的な改革が進められているわけでございます。

資源に乏しい我が国が、将来にわたって活力を維持し、積極的に世界に貢献していく上で、その成否を左右するのは、やはり人材育成であるとの考え方は、広く国民の共通の理解となりつつあるところでございます。ことに大学は、我が国の最高学府として、知的人材の育成に対して責任を果たしていく立場でございます。

今日、各大学において、カリキュラム改革や教育方法の改善などを通じて、個性豊かな教育を多様に展開していくことが求められていることは言うまでもありませんが、その中で、変化の著しい社会にあって、各自が主体的に生きていくための幅広い視野や総合的な判断力、豊かな人間性の涵養など、いわば人間形成の基本的課題に対して、大学がどのように対応していくかが、改めてクローズアップされるようになっております。

今後21世紀を担う人材の育成に向けて、大学教育において何をなすべきなのか。そのビジョンの形成は、将来にわたり改革を推進していく全ての大学にとって、避けて通ることのできない課題であろうと思います。

本日『これからの大学はどのような人間の育成を目指すか』というテーマのもとに、こうしたビジョンの明確化に向けて様々な角度から意欲的な議論がなされること、更には、本日の議論が、あるいはその成果が、この会場を超えて広がり、より多くの大学人、大学関係者に共有されることを心から願うものです。

最後に本日のフォーラムの開催に当たっての、京都大学高等教育教授システム開発センターをはじめとする関係の皆様のご尽力に感謝を申し上げまして、ご挨拶にかえさせていただきます。